

第14回 日本視機能看護学会会員情報交換会セミナー交流会報告

■テーマ：【テーマ】

硝子体手術後の腹臥位における体位の工夫と指導方法について

■日時：2023年2月25日（土）14：00～15：15

■参加人数：10施設17名（日本視機能看護学会役員含む）



今回は腹臥位ケアにおける各施設の説明の工夫と、苦痛の緩和のための体位の工夫について具体的な方法を共有し、更なる改善方法について共有したいと考え、今回の情報交換会を企画しました。

当日は半数の参加施設の方より、自院での術前説明に活用されている説明用紙やグッズのご提示と術後実際に使用されている腹臥位の安楽物品とその活用方法について、スライドおよび現物のご提示によりご紹介して頂きました。

まずは術前の腹臥位の必要性に関する患者理解の方法として、みやすい説明用紙の工夫はもとより、眼球の模型を活用して剥離部を把握する工夫などのご紹介もありました。各施設の腹臥位に関する安楽の工夫については、さまざまな安楽物品の準備や安楽な体制を工夫するための手作りのグッズを開発されており、看護師の智恵と工夫の中に患者さんのご意見や思いが反映されていると感じました。

更に、褥瘡対策に関わる工夫として、物品の選択のバリエーション、観察などについても適宜見直しながら関わっておられるご様子も伝わってきました。

腹臥位の継続については患者さんの精神的なフォローについても重要であり、病状の把握とともに患者さんへの声掛けをおこない、励ましながらケアをすすめておられる姿も印象に残りました。

術後の腹臥位の必要性については変容もあり、徐々に腹臥位の期間も短縮化している傾向もあるようですが、日常的な姿勢ではないので、苦痛の時間を過ごされることは変わりありません。

今後もの皆様と共に視機能看護の視点で、患者さんが治療を継続して安全に安楽に行っていけるための腹臥位ケアに関する各施設のアイデアを適宜共有しながら、幅広いケアを考案していける機会をつくっていきたいと思います。